한국의학도서관협회지
Journal of Korean Medical Library Association
J Korean Med Libr Assoc 2023;50(1,2):4-9
ISSN 2383-8809

Supplementary material 1. Japanese version of the article

日本医学図書館協会 公式ジャーナル「IGAKU TOSHOKAN」の役割と編集業務

日本医学図書館協会 IGAKU TOSHOKAN 編集委員会は

はじめに

Journal of Korean Medical Library Associationが創刊50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。貴会は1968年に設立されて以来、医科大学、病院、研究機関、製薬企業などの会員館に対して、様々な協力活動を牽引してきました。主要事業のDocument Delivery Serviceは、会員館を通して多くの医療を志す学生、医療従事者、研究者の学習、臨床、研究を支援してきました。それは韓国の医学の発展に大きく寄与しています。近年では、MeSH Indexing ProjectやJournal/Database Consortium事業を展開しており、これらの事業は日本の医学図書館員も関心を持っています。また、Feb, 6, 2020にCOVID-19関連資料のOpen Access Linkを公開したことは世界的に見ても迅速な行動でした。これまでの歴史を築かれてきた歴代理事長、理事、医学図書館員、事務局職員の皆様の御努力に、深く敬意を表します。

IGAKU TOSHOKANについて

今回、Japan Medical Library Association (JMLA) official journal「IGAKU TOSHOKAN」editorial boardに、寄稿の御依頼をいただきましたことを大変嬉しく思っています。本稿では、IGAKU TOSHOKANの役割と、編集作業についてご紹介します。

IGAKU TOSHOKANの発行は、JMLAの重要な事業の一つです。創刊は1954年です。内容は、医学およびその関連分野における情報活動・サービス等に関する記事と、読者間のコミュニケーションを重視した定例記事やニュース記事で構成しています。発行は年4回（3, 6, 9, 12月）です。発行部数は各号1,450部です。創刊時から一貫している編集方針は以下のとおりです。

① 日本の医学図書館員がみんなで話し合い、知らせあうためのメディア
② 医学図書館員だけでなく利用者にも役立つもの
③ 知識の蓄積

一方で、雑誌の黎明期からの課題は、会員からの投稿が少ないことです。また、特定の館や著者への片寄りがあります。IGKU TOSHOKANをできるだけ多くの人に読んでもらうためには、著者を増やすことが重要ですが、とても難しい課題です。歴代の編集長や編集委員たちがこの問題に取り組んできましたが、今も解決していません。解決するには、すべての医学図書館員の参加が理想です。過去には、「Lancet」の「Letters to the Editor」を参考に「読者からの手紙」と「編集デスク」を作りました。これからもeditorial boardは参加者を増やす工夫を続けます。そして、日本の医学図書館員のバイブルとして巻を重ねていきます。

「IGAKU TOSHOKAN」データ
ISSN 0445-2429 Online ISSN 1884-5622
Official Website https://jmla1927.org/bulletin.php
Online Journal Site
・J-STAGE: https://www.jstage.jst.go.jp/browse/igakutoshokan1954/-char/en
vol.1 (1954)～vol.55 (2008) Open Access

・Medical Online: https://mol.medicalonline.jp/
vol.1(1954)～current Subscription
創刊　1954年
発行頻度　vol.1 (1954)～vol.9 (1964) bimonthly
vol.12 (1965)～quarterly
Editorial board member　9人

編集委員会 (Editorial Board)

編集委員会は、理事1名、編集委員長1名と編集委員8名の構成です。この人数は最低人数なので、もう少し委員が増えると嬉しいのですが、なかなか増員は叶いません。(Fig. 1)

理事は、委員会活動の総括を行うため、実際の編集業務は9名が担当しています。ひとつの号を編集委員2名と編集委員長で担当します。「医学図書館」は１年４冊発行ですので、編集委員は１年に1回担当号があるということです。委員は、この他に定例記事を担当しており、著者探しから最終PDFの確認までを担当しますので、担当が1年1回といっても、年間を通して何らかの編集作業を行っています。

編集作業にあたっては、印刷会社と共同で構築した編集システム (Webサイト) を用いています。編集システムを用いることで、委員は日本国内各地に居住しているにも関わらず、円滑に編集作業をすすめることができます。

Fig 1. IGAKU TOSHOKAN 編集委員会は.

編集システムは、個々の記事毎に、原稿、推敲後の入稿原稿、PDF,校正後のPDFなど、編集作業の進捗にあわせたファイルをアップロード、ダウンロードすることができます。編集システムにアクセスできるのは編集委員のみですが、査読をお願いしている図書館職員の方達も指定したファイルのダウンロードが可能です。

私たちの編集作業は、その殆どをオンライン (メール・編集システム) で行っていますが、最終校正だけは、印刷会社まで出張して直接確認しています。作業はオンラインで完結できる時代となりましたが、実際に印刷されたものを3人の委員で、時として意見交換しながら確認することの重要性を実感しているからです。確認作業は、丸一日朝から夕方まで、原稿のチェックだけを集中して行います。最初のページから最後のページまでを通しで確認することで気づかなかったところに気づくこともあります。細切れで確認してきた記事が初めて「1冊」となる瞬間ということでしょうか。パンデミック中は印刷会社に赴くことができず、１冊分の紙原稿を郵送でやり取りしたり、Zoomを使ってそれぞれの自宅で１ページ目から確認しながら意見交換したり　(終わったときは深夜になりました)　工夫をしてきました。

ここからIGAKU TOSHOKANの定例記事についてご紹介いたします。

1. 会員館紹介 (From the Member Libraries)

毎号，日本医学図書館協会の会員館から自館についての紹介記事を寄稿いただいています。日本全国の会員館について北から南まで順番に書いていただくようにしています。現在は関東地区の会員館が執筆しています。書いていただく内容は重点を置いているサービスや特色ある資料，新しい試みや具体的な事跡などです。寄稿された記事を読みますと，当該図書館の歴史，いろいろな利用者サービスへの取り組み等知ることが出来ます。遠方の図書館へはそう簡単に訪問することが出来ません。近隣の図書館

でさえ， お伺いする機会はそうありません。誌上ではありますが，各館の現状を知ることが出来，有意義なコーナーだと思います。おおむね各館は執筆を引き受けてくださいますが， 職場が少人数のため多忙で執筆に時間を割けない， 地震など災害に被災して復旧対応優先であるなどの事情で， 執筆を引き受けていただくことが出来ない場合もあります。仕方のないことです。でも，ちょっと残念ではあります。

2. 広場 (Forum)

「広場」は、各館の出来事の紹介、日々の業務についての情報交換など、関連分野の仲間が発信する各種の情報をエッセイとして掲載するコーナーです。

毎号テーマを設定し、1～3名の方にご執筆いただいています。

テーマの設定は、担当である私が思いついたものを委員長と相談して決めたり、委員会で話題に上ったことをヒントにしたりして決めています。これまで扱ったテーマは「機関リポジトリ」「電子書籍」といった図書館業務に関するもの、「Facebook」「Twitter!」といった広報に関するもの、「英語を学ぶ」「図書館員の転職」「定年後」といった自己研鑽やライフプランに関するものなど、さまざまです。中にはシリーズ企画もあり、自身の趣味やライフワークについて自由に執筆していただく「My Favorite Things」という企画は、年に1号のペースで10年以上続いています。

テーマが思いつかない時には、インターネットを検索したり職場の同僚に何か最近気になっていることはないか聞いたりして、読者のみなさんが知りたいようなこと・興味を持ってもらえそうなことを探します。ネタ探しはたいへんな面もありますが、まず自分が知りたいと思っていることを取り上げられるので、担当の特権だと思って、楽しんでさせてもらっています。

テーマが決まれば、次は執筆者探しです。

基本的にはJMLAの会員の方に執筆していただきますが、テーマによっては会員以外の方に執筆していただくこともあります。伝手をたどってお願いすることもあれば、飛び込みで打診することもよくあります。残念ながらタイミングが合わずお断りされることもありますが、そのぶん、お引き受けいただいた時の喜びはひとしおです。本当にありがたいことだと思っています。

今後も幅広いテーマを取り上げ、業務の役に立つだけでなく、執筆者の意外な一面を知ることができたり、これからの毎日に元気がもらえたり、読者のみなさんにとっての憩いの広場であるよう、素敵な原稿を届けていくつもりです。

3. 読者からの手紙 (Letter to the Editor)

「読者からの手紙」は誰かに宛てた手紙のように、あるいはエッセイ風に執筆者の思いのたけを綴っていただくコーナーです。テーマは以下のように幅広く想定しています。

- 最新号に掲載された記事への感想
- 本誌やJMLAへの率直な意見や要望
- 図書館における日常やトピック
- 印象に残った人やエピソード
- 医学や図書館に寄せる思い ……などなど。

文量は比較的少なめ (本誌1頁分) で英文抄録なども不要なため、構えずに気楽な気持ちで、のびのびと筆を走らせてもらいたい、と願っております。

自館の施設や取り組みなどを紹介する「会員館紹介」のコーナーとはすこしコンセプトを変えて、なるべく書き手の存在感を活かした“ライブラリアン個人の目線”での執筆をお願いしています。というのも、遠慮深い日本人気質のなせるわざか、執筆者の方はどうしても自分をあまり出さずに、組織としての図書館の中に埋もれがちになるところがあるのです。初稿でそんなふうに感じたときは、ここをもっと肉付けしたらどうか、このあたりをふくらませたら良いかも？などと推敲の際にアドバイスすることもあります。「手紙」なので、執筆者の表情が見えるような文章が理想です。

これまでに100人以上の方にご執筆いただき、日々の徒然や未来予想図、カウンター対応、患者図書室、イベントや出版情報など、さまざまな切り口

から図書館員人生が語られてきました。ここ数年は「コロナ禍」がテーマになることが多く、苦労が偲ばれたり、しみじみ共感したり、工夫が参考になったりしたものです。今後もまたいろいろな視点からの図書館員人生が綴られることを願っています。

4. レファレンス事例集 (Reference Cases)

「レファレンス事例集」は、2名の編集委員が担当しています。

「レファレンス事例集」は、図書館員が利用者から依頼されておこなった調査の中から、他の図書館にとって参考になる事例を紹介する記事です。さまざまな手がかりを元に調査して時間がかかった事例や、データベースを使った検索で工夫が必要だった事例などが掲載されます。2023年12月までに、156の事例が紹介されました。しかし、この記事は、魅力的な事例と出会えなければ、書くことは難しいです。執筆者を探すことに、私たちは、いつも苦労しています。

最近は、過去20年間の医師国家試験における男女別の合格率を調査した事例や、存在するはずの表(table)を古い図書から探し出した事例が掲載されました。たくさんの種類のデータベースを使って解決した事例だけでなく、座ったままキーボードを叩くだけでは調べられない、100年以上前の事柄を調べた事例もありました。

たんに珍しいレファレンスの紹介ではなく、読者の現場で役に立つように、ツールや考え方も含めて、どのような調査のプロセスを経て回答にたどり着いたのかを順を追って説明するところに、この記事の特徴があります。記事は、「質問」「調査の経緯」「回答」「情報源」「補足」「ポイント」で構成されています。「ポイント」の所には、著者自身が事例から得た教訓が、日本の“川柳 (Senryu) ”の形式でユーモアたっぷりに書かれることもあります。「レファレンス事例集」は、毎回楽しく読まれていると思っています。

5. ブックレビュー(Book Reviews)

毎号、全国の日本医学図書館協会会員館から4名ほどに寄稿していただく書評コーナーです。このコーナーのコンセプトは、過去2～3年の間に出版された医学や図書館に関連する本を選び、その本の魅力について紹介するというものです。この記事の著者は、取り上げた出版物についての考えや解釈を会員と共有し、また会員に対して新たな視点を提供します。このブックレビューのコーナーに本が取り上げられることがきっかけとなり、読者は、職場にあるのに気づかなかったかもしれない本を手に取るかもしれません。

書評では、幅広い読者層が興味を持てるよう、業務上読んでおいたほうが良いものから医療マンガまで、多様なセレクションの本を取り上げています。

最近取り上げた図書の一例をご紹介します。

・『ヒポクラテス医学論集』(ヒポクラテス著 ; 國方栄二編訳 岩波書店, 2022) ISBN : 9784003390122

・『大学のデジタル変革 ―DXによる教育の未来―』(井上雅裕　編著　東京電機大学出版局, 2022) ISBN : 9784501633806

・『あの図書館の彼女たち』 (ジャネット・スケスリン・チャールズ著 ; 高山祥子訳　東京創元社, 2022) ISBN : 9784488011130

・『侠医冬馬』(村上もとか著 ; かわのいちろう共同作画　集英社ヤングジャンプコミックスGJ, 2019) ISBN : 9784088928043

ブックレビューコーナーを編集委員として担当する上で、私が直面する主な課題のひとつは、書評執筆を引き受けてくれる方を見つけることです。みなさま多忙な職業柄、喜んで書評を書いてくれる人を確保するのは難しいものです。さらに、図書館に勤務しているからといって、必ずしも読書習慣があるとも限りません。目の前を多くの本が通り過ぎるばかりで、なかなか手に取って読むことが難しくなってきています。私たちも、他の皆さんと同様、YouTubeやNetflix , SNSなどの誘惑に四六時中囲まれています。その誘惑をはねのけ、最近面白い本を読

んだことがあり、なおかつ書評を書いてくださる人を探し当てねばなりません。毎回、加盟館会員の方に執筆依頼をかけ、断られることも多いですが、執筆を承諾してくださる方を見つけたときは、とてもうれしいものです。

読者の皆様に価値ある図書をご紹介し、読書の楽しみを提供し続けられるよう日々取り組んでいます。

6. 東西南北 (News)

東西南北では，医学図書館員が知っておくべきことや日常業務にも役立つニュース記事を掲載します。ニュースソースは，新聞記事だけでなく幅広いメディアからニュース記事を収集しています。記事の作成は、編集委員と地区会選出の編集協力委員に依頼します。

情報源は，新聞・雑誌などの出版物，会議開催の案内，インターネットなどで，以下の

内容を掲載しています。

1) 医学関係図書館業務に直接関係するニュース
2) 医学関係図書館業務に間接的に関係するニュース 例えば、医学関係，図書館・情報学関係，出版関係，著作権問題など。
3) コンピュータ・通信 (インターネットを含む) 関係としてのニュース
4) その他，注目すべきニュース

毎号，たくさんの委員たちに記事を書いてもらいます。人によって注目するニュースは違うので，幅広い内容の記事が集まり、読者の参考になっていると思います。

また，その時に話題になったことやできごとを掲載していますので，後々見返すとちょっとした史料集にもなるかと思います。

7. Journal Club

Journal Club (以下，JC)は，医学図書館の日常業務の参考となる論文などを紹介している記事紹介欄です。読者の個人啓発や業務に役立つ記事を目標に選択し，それを以下の9つのカテゴリー分類し掲載しています。

「Library(医学)」，「Library(その他の図書館)」：図書館、情報学関連の話題

「Bibliometrics」：学術文献等に対する書誌情報を計量的に分析した研究論文や記事

「Computer＆Internet」：コンピュータやインターネット関連，AIに関連した記事

「Health Care and Services」：患者図書や医学系図書館における利用者教育や利用者リテラシーに係わる情報

「Medical Education」：医学図書館に関わりそうな医療者の育成記事

「Medical」：ガイドライン関連記事など

「Miscellaneous」：そしてその他，業務に関連しそうな記事

編集委員会でJC採択誌を決め，編集委員及び地区協力員の協力を得て記事を収集し，紹介欄を作成しています。記事作成時には前述した9つの記事カテゴリー，論題，また英語論文の場合は英論題和訳，著者名，記載誌名，年，巻号，ページ，DOI，キーワードといった書誌事項を記録しています。キーワードは取り上げた論文に関するキーワードを3～5個付与していますが，著者が作成したキーワードがあればそちらを優先していただきます。著者キーワードが無い場合は記事編集者が内容に沿ったキーワードを独自に作成、付与しています。

収集した記事は、JC担当者が原稿掲載用に体裁を整えます。その際には，担当者及び各号の担当者，編集委員長とで記事の取捨選択等やカテゴリー振り分けの見直しを行うことがあります。

記事体裁を整える際には，誤字脱字はもちろんのこと内容がJCに相応しいものか，英論文標題の和訳は正確か，編集者が付与したキーワードが適切か，カテゴリーはあっているか、と言ったことに気をつけています。とくに、JCに掲載すべき内容かどうかの判断をするのはとても難しいです。号担当者，編集委員長と共に悩みつつ，毎号記事本文を確認しながら取捨選択を行っています。

JC欄を編集していると，医学界や医学図書館界で

は今何が話題になっているかがすぐにわかります。例えば、最近ですと各カテゴリーでChatGPTをはじめとしたAI関連の記事が多く取り上げられています。このようにJCは，数多ある雑誌を１誌１誌読者自身が確認せずとも，興味がある分野の記事や、何が話題かをJC欄を見ればわかるようにと考えて作成しています。

今後も，読者の業務や自己研鑽に役立つ記事をタイムリーに紹介していきたいと考えています。

おわりに

編集委員会の活動に対してはお給料がでるものではなく、全員が他に本業を行う傍らで活動に従事しています。時としては辛いこともあります。忙しい時には、本業の業務後に遅くまで作業をしなければならないこともあります。

それでも、編集作業は楽しいです。本当です。やりがいがあります。それも本当です。私たちは変な人の集まりなのでしょうか。それは違います、たぶん。

著者から送られてきたWordやExcelの原稿はまだ片鱗のようなものです。それを、著者と編集委員の共同作業でブラッシュアップし完成させていく楽しさ、できあがった記事を、まとめ、並び替えて1冊の出版物にしていく楽しさ、喜び、達成感をどう表現すればよいでしょうか、文字にするのはとても難しいです。しかも1度経験すると、この気持ちをなかなか忘れることはできません。これが編集委員のモチベーションの源かもしれません。

IGAKU TOSHOKANも、文字によるコミュニケーションを行っている学術誌です。学術誌のコミュニケーションには長い歴史があり、対面のコミュニケーションを変化させた今回のパンデミックに於いても、学術誌の存在意義は変わりませんでした。おそらく今後も根本的には変わらないのではないかと考えます。医学図書館という領域で、会員間の文字によるコミュニケーションを支え、会員の専門性向上を支える存在として、活動を継続していきます。

末尾になりましたが、韓国の医学図書館を支えてきたJournal of Korean Medical Library Associationの50周年に重ねてお祝い申し上げるとともに、引き続きのご発展をお祈りいたします。